

令和2年町長施政方針②

広報奥出雲3月号に続き、施政方針演説の内容を一部抜粋して掲載します。

―教育について―

小学校再編方針については、方針の再検討をしています。昨年の説明会や議会の皆さまから頂いた意見を反映させ、保護者や町民の皆様から信頼され、安心される方針とするともに、私自身も皆さまの声を直接受け止めながら、新しい再編方針を基に丁寧な協議を進めて参ります。

GIGAスクールの推進については、※1「Social 5.0時代に生きる子ども達の未来を見据え、児童生徒一人一台の端末および通信環境を一体的に整備し、その活用を目指す」もので、国において先般補正予算が可決されました。

先ずは、全小中学校施設において校内ネットワークを整備し、国の事業計画に合わせ今後5年程度をかけ、小学校1年生から中学校3年生までのタブレット端末全数を順次整備する計画としていきます。小中学校の学習指導要領改訂を見据え、子ども達の教育環境の充実を努めて参ります。

ロジエクト」として、高校、行政、町民の皆様が一体となって取り組む「※2」横田高校魅力化コンソーシアム」を立ち上げ、運営支援を行います。

今後は、このコンソーシアムを中心として高校魅力化、地域活性化を目的とした幼小中高連携、学校と地域の連携をさらに進めて参ります。

―その他―

※3 ICT技術の導入については、近年※4 AIや※5 RPAなどの先進的な技術の導入により、業務の効率化や負担軽減を図る取り組みが進められています。本町においても、業務の省力化を図り、より質の高い行政サービスを提供するため、RPA技術を業務業務へ試験的に導入し、その効果を検証し、町民の皆様の利便性の向上を目指します。

議案書や各種議会関連資料などを電子化することで、業務の迅速化や効率化、ペーパーレス化にも資するものと考えております。

- ※1 日本が提唱する未来社会コンセプト。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を目的とする。
- ※2 地域の子ども達にどのように育ってほしいか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域の住民や教育機関等多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制をいう。
- ※3 「情報通信技術」の略
- ※4 「人口知能」の略
- ※5 「業務プロセス自動化」の略
- ※6 文部科学省が大学を対象に「地域社会との連携強化による課題解決」や「地域振興策の立案・実施を視野に入れた取り組み」を支援する施策をいう。

藤原努副町長 就任

地域で暮らす一人の町民としての知識と経験を活かします。



奥原 徹前副町長が県へ復帰するため3月末で副町長を退任されました。その後任として、このたび町議会におきましてご同意を賜り、4月1日付けで奥出雲町副町長に就任いたしました。現在、副町長という職責の重さに身の引き締まる思いであります。

私は、昭和58年4月仁多町に奉職以来、37年間役場に勤めさせていただきました。その間、農業振興や道路建設改良事業のほか、定住推進、人事、財政などの業務に携わってまいりました。

この度、役場職員としては退職いたしますが、4月からは副町長という立場で、引き続き、町政に関わらせていただくことになりました。

役場職員としての経験はもとより、地域で暮らす一人の町民としての知識と経験が、少しでもお役に立てればと考えております。

現在、奥出雲町では人口減少という難題に立ち向かうため「次期総合計画」の策定を進めようとしております。また、第三セクターの経営健全化、小中学校の再編、地域医療の確保など、喫緊の課題も山積しております。

それぞれの課題に対する取り組みが、一歩でも前進するよう、精一杯努めて参る所存であります。

ここ奥出雲町には、豊かな自然と文化があり、美しい景観、仁多米、温泉、たたら製鉄などの地域資源も豊富にあります。

私たち奥出雲町民にとって当たり前の地域資源が、都市住民にとっては貴重な存在であることを認識し、そのことに誇りを持ち、今まで以上にこれらを活用することで、奥出雲町は未来に向かって発展できると確信しています。

奥出雲町に住んで良かった、これからも住み続けたいとすべての町民が思えるよう、町長を補佐し、職員と力をあわせて、町政発展のため全力を尽くす所存であります。

町民の皆さまのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶いたします。

奥原徹副町長 退任

奥出雲町の応援団として、奥出雲町をこれからも応援します。



3月31日、行政各般にわたりご尽力いただきました奥原徹副町長が退任されました。奥原副町長は平成29年4月の就任以来、3年にわたり町政運営にご尽力いただきました。島根県職員としての経験や知識をもって、地域づくりや定住対策では「小さな拠点づくり」の推進、住み慣れた地域で自分らしい生活がおくれるような「地域包括ケアシステム」の構築など、町の発展に多大な貢献をされました。

奥原副町長は、退任に際し「これまで副町長として、また奥出雲町民として多くの皆様との出会いがあり、貴重な経験をさせていただきました。タウンミーティングでは、高校生や若い方から奥出雲町を良くしていきたいという強い思いを聞きまして、小さいな拠点を聞きまして、住民の皆さまが、夜遅くまで地域の将来を議論し、課題解決に向けて取り組みをされており、「地域の持つ力こそが、奥出雲の将来を担っていく」と強く感じました。厳しい道のりですが、町民の皆様と行政が心を一つにして立ち向かえば、希望溢れる奥出雲町の未来を築いていくと確信しています。」と述べられました。

奥原副町長は、退任に際し「これまで副町長として、また奥出雲町民として多くの皆様との出会いがあり、貴重な経験をさせていただきました。タウンミーティングでは、高校生や若い方から奥出雲町を良くしていきたいという強い思いを聞きまして、小さいな拠点を聞きまして、住民の皆さまが、夜遅くまで地域の将来を議論し、課題解決に向けて取り組みをされており、「地域の持つ力こそが、奥出雲の将来を担っていく」と強く感じました。厳しい道のりですが、町民の皆様と行政が心を一つにして立ち向かえば、希望溢れる奥出雲町の未来を築いていくと確信しています。」と述べられました。

社会福祉法人仁多福祉会と「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」締結

4月1日、奥出雲町と社会福祉法人仁多福祉会との「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」の締結式が行われました。福祉避難所とは、高齢者や障がい者、妊婦など災害時に援護が必要な人たちに配慮した市町村指定の避難所でバリアフリー等の一定の条件を満たした施設です。本協定により、大規模な地震や風水害等が発生し、災害時要援護者の避難が必要となった場合、町からの要請に基づき避難者を受け入れる福祉避難所の設置を連携して行うこととなります。勝田町長は「近年、災害が多発し、町民の防災意識も高まっており、バリアフリーや冷房設備の整った施設が福祉避難所として運営が可能となり心強く感じます。」と話され、藤原理事長からは「施設の機能を活かして、安心して避難生活がおくれるよう支援していきます。」と述べられました。

自衛隊入隊予定者激励式

今春より自衛隊員として働く奥出雲町出身者に対し、自衛隊入隊予定者激励会が3月2日に役場仁多庁舎で行われました。自衛隊への入隊は本町では4年連続となります。激励会のなかで「奥出雲町出身者としての誇りを持ち、町民の期待を背に入隊していることを忘れず、使命感溢れる自衛隊員として活躍して欲しい。」との激励の言葉が勝田町長から入隊者の小早川祐輝さんへ送られました。



▲自衛隊に入隊する小早川祐輝さん